

令和4年5月11日

「ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬の地下水、水道水中での検出」に関わる緊急要望

宮古島市農林水産部部長 平良 恵栄 殿

宮古島地下水研究会

共同代表 前里和洋 新城竜一 友利直樹

私達宮古島地下水研究会は、予備調査で地下水中ネオニコチノイド系農薬の濃度測定を行い、10か所中、**下里の水道水**を含む8か所で、微量ながらネオニコチノイド系農薬が検出されました。農薬の地下水への広汎な浸透が危惧される緊急事態と考え、昨年3月これらの農薬の地域別、作物別の供給量・使用量の実態を調査し公表するよう提案書を提出しました。1年近くなりますが、返事がありません。水道水でクロチアニジン（ダントツ）が痕跡ながら検出されたことは、非常に重大な事態と考え、昨年11月地下水、水道水、農業用水中のネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬濃度を10か所で採水し、農民連食品分析センターに分析を依頼した。ネオニコチノイド系農薬（クロチアニジン、ジノテフランアセタミプリド、イミダクロプリド、チアクロプリド、チアメトキサム、ニテンピラム）、フェニルピラゾール系農薬（フィプロニル、クロラントラニリプロール等）14の成分を測定した。10か所中、9か所でネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬が検出された。最も使用されているクロチアニジン（ダントツ）、ジノテフラン（スタークル）等3種類以上が、水道水を含む9か所で検出された。合計農薬濃度は、山川湧水で187/ng、アナガー湧水で185.9ng/L等畑作の多い地域で高い濃度を示した。**驚くべきことに、下里の水道水では、クロチアニジン（ダントツ）21.7ng/L、ジノテフラン（スタークル）21.2ng/L、フィプロニル（プリンス）2.3ng/L合計45.2ng/L検出された（図1）。**化学農薬による水道水・地下水の広汎な複合汚染の実態を示す結果であった。これらの農薬は、ヒトへの発達神経毒性を有し胎児や小児の脳に影響を及ぼす可能性ありとして、予防原則のもとにEUや米国、韓国、台湾では、使用禁止・規制となっている。慢性暴露により自閉症スペクトラム障害の発症リスクとなることが明らかになってきた。たとえ微量であっても、毎日飲用する水道水で検出された3種類の農薬成分の相互作用により、胎児への複合毒性が高まる可能性があり、健康影響が懸念される。私たちの最新の調査で、クルマエビが全滅した養殖池において、複数のこれらの農薬が残存飼育水や底砂から検出された（図2）。クルマエビはこれらの農薬の毒性成分に感受性が高いことが報告されている。クルマエビ全滅に関し複数の農薬成分の関与が強く疑われる。「沈黙の春」や「水俣病」で学んだヒトへの健康影響の警鐘と捉えるべきだ。農薬管理の基礎となる考えは、「予防原則」である。化学農薬の使用量が多く、地下ダム止水壁により自然の水循環による浄化機能が減弱している現状は、化学農薬による地下水複合汚染を引き起こす環境にある。子や孫への健康影響が懸念される。これらの農薬の使用を推進してきた行政の責任として、下記の事項の速やかな実施を要望する。

記

1. 農薬製剤年間供給量と農薬原体量を公開すること。ネオニコチノイド系、フェニルピラゾール系及び有機リン系農薬、グリホサートについて地域別、作物別の供給量・使用量を市民に公開する事。
2. 各地下ダム貯留水、ファームポンド、スプリンクラー散布水のネオニコチノイド系、フェニルピラゾール系及び有機リン系農薬、グリホサート濃度のモニタリング調査を行い、結果を市民に公開する事
3. 「水道水での複数農薬検出」という緊急事態に関し、市長、農林水産部、上下水道部、エコアイランド推進課、環境衛生課、宮古島地下水研究会参加によるZoomミーティングの早期開催を要望する。

2週間以内に、要望に対する返事を下記にいただきたい。

宮古島地下水研究会連絡先：共同代表 友利直樹 tomorint@gmail.com 042-388-2678

事務局 平良雅則 qqh47349k@rondo.ocn.ne.jp 090-5279-6369

【参考資料】

図1. 宮古島市の地下水・農業用水・水道水中ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬濃度(ng/L)

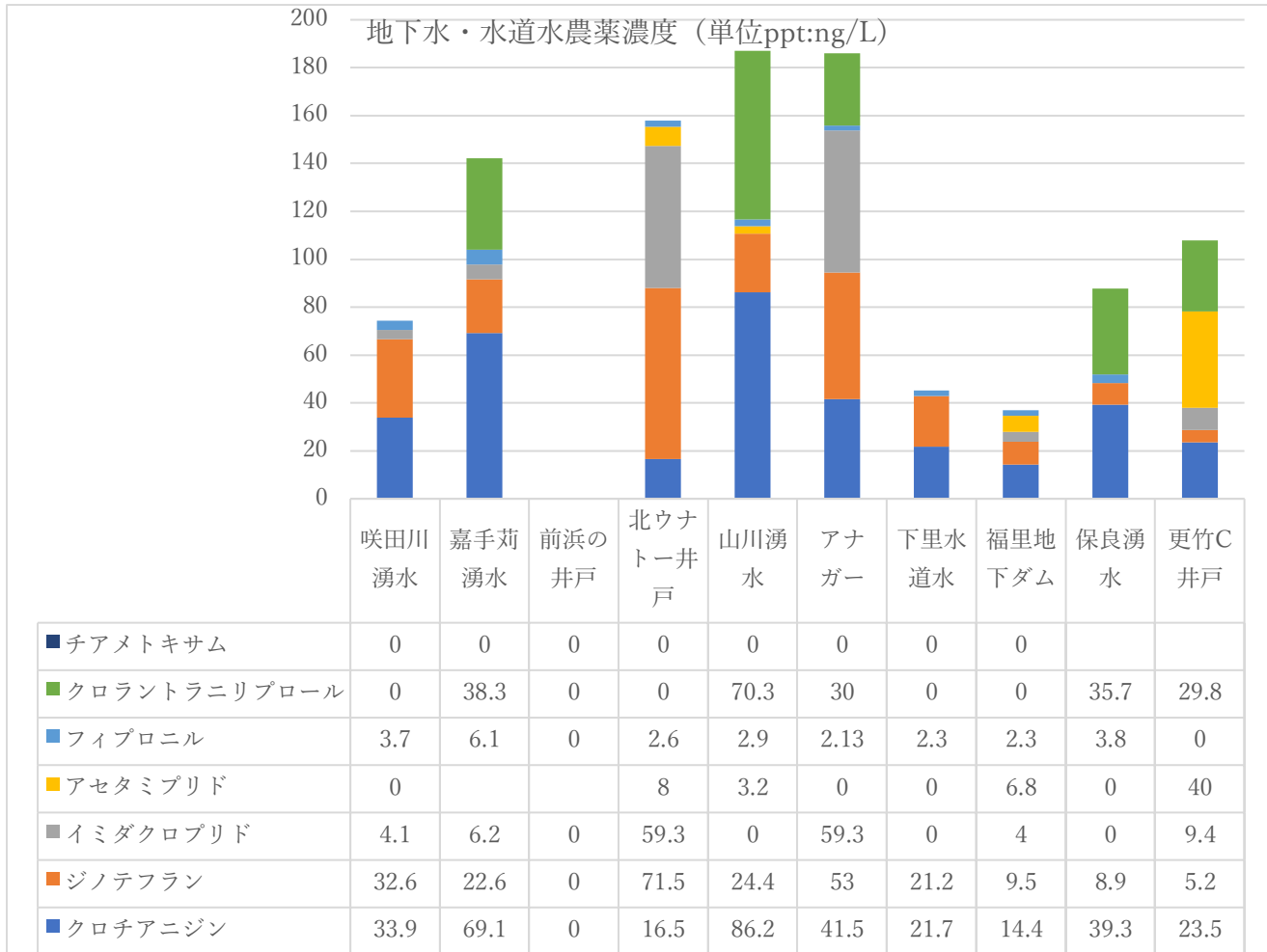


図2. 養殖場施設内ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬濃度(ppt: ng/L)

